

藤沢市総合教育会議 議事録

会議名	平成 27 年度第 5 回 総合教育会議
開催日	2015 年 (平成 27 年) 11 月 4 日 (水) 18:00~18:58
場 所	森谷産業旭ビル4階 第1会議室
出席者 (敬称略)	(市側) 鈴木市長 (教育委員会) 小竹伊津子、井上公基、中林奈美子、吉田早苗 (関係職員) 子ども青少年部長、生涯学習部長、保健医療部長、子育て企画課長 生涯学習総務課長、子ども健康課長、健康増進課長 教育次長、教育部長、教育総務課長

【議事録】

事務局 (司会)

- ・ただいまから平成 27 年度第 5 回総合教育会議を開催いたします。傍聴者の中で録音、録画、写真撮影を行いたい方は挙手をお願いいたします。(なし)
- ・それでは、総合教育会議の座長である鈴木市長からごあいさつをいただきたいと思ひます。

鈴木市長

- ・皆さん、こんばんは。11 月に入り、総合教育会議も第 5 回となりました。前回の流れから大綱の素案 1 と 2 が示されております。きょうもいろいろご意見を聞いた中で協議を進めてまいりたいと思ひます。いずれにしても、藤沢らしい大綱をつくっていきたくと思ひておりますので、よろしくお願ひいたします。
- ・秋になって、私の行動をお話しますと、午前中に多摩大学、観光協会、藤沢市で観光連携等の協力・協定を行いましたが、観光についてそれぞれできることをやっていきたくと思ひております。
- ・もう 1 つは、全日本学生ヨット選手権大会が江の島で 8 日まで開催されております。全国から学生 500 名、関係者 300 名が来ておりまして、学生日本一を競ってプレーが行われます。また、遊行寺では一遍上人の展示会が行われておりまして、文化、スポーツ関係をはじめ各地で様々な試みが行われておりますので、皆様方にもご承知いただければありがたいと思ひております。
- ・いずれにしても、藤沢は「湘南の元気都市」を目指しておりまして、パートナーシップをしっかりと組みながら進めていければと思ひております。また、藤沢市の教育の振興についても、より良い形になるように、相談しながら進めてまいりたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

事務局（司会）

- ・続いて、このたび新たに教育委員会委員長に就任されました小竹委員から一言ごあいさつをお願いいたします。

小竹委員

- ・11月1日より、関野委員長の後任として委員長に任命されました小竹伊津子です。微力ながら一生懸命務めさせていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（司会）

- ・それでは、会を進めさせていただきます。本日の資料の確認をいたします。（資料確認）
- ・本日も関係職員が出席しておりますので、よろしくお願いいたします。
- ・それでは、鈴木座長に会議の進行をお願いいたします。

鈴木市長

- ・それでは、議題に沿って進行していきたいと思えます。
- ・まず、（1）議事録署名人については、座長の私と吉田委員としたいと思えますが、ご異議ありませんか。（「異議なし」の声あり）
- ・それでは、本日の議事録署名人は吉田委員と座長の私といたします。
- ・次に、（2）教育に関する大綱（素案）について、事務局の説明をお願いします。

事務局

- ・前回、素案①と素案②をお示ししまして、さまざまご意見をいただきました。今回はそれをなるべく取り込ませたような形で素案として策定いたしましたので、ご説明いたします。
- ・1の表題について、「ふじさわ教育大綱 ～学びの環・人の和・元気の輪」ですが、この表題は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定に基づくものということですので、「大綱」という形を明示しております。「ふじさわ」については、やさしいイメージで、平仮名の表記といたしました。それからサブタイトルの「学びの環」については、「教育振興基本計画の基本理念」から取っております。「人の和」については、「市政運営の総合指針 2016」の目指す都市像から取っております。「元気の輪」については、未来を拓く子ども（藤沢っ子）を育成するという教育振興基本計画の目標と2020年東京オリンピック・パラリンピックのセーリング競技の開催を踏まえ、オリンピックのシンボルである五輪の輪を位置づけて、「ふじさわ教育大綱～学びの環・人の和・元気の輪～」と表題を策定しております。
- ・2の基本的な考え方（前文）について、「私たちは、すべての人がやさしく手を差し伸べあい、未来への夢や目標に向かって生きる力を育み、笑顔あふれる幸せなまちづくりを進める役割を持っています。豊かな自然、歴史、文化などを大切に育みながら、人や地域の関わりの中で学び、考え、行動する（生きる）ことで自分と地域を輝かせ、郷土愛あふれる藤沢の教育、学びとして、学びの環・人の和・元気の輪を未来へ繋いでいきます。」ということを前文にしております。

- ・この前文の背景としては、基礎自治体を取り巻く少子高齢化や核家族化の進展ということで、子どもを取り巻く環境が多様化、複雑化してきているというところを背景に、また、教育や学びによる生活の豊かさというのを「笑顔あふれる幸せなまちづくり」という表現にしております。
- ・そして藤沢の未来の担い手であり、宝でもある子どもたちを中心に、すべての人が支え合い、生きる力や学びから、笑顔と幸福を導くまちづくりということを定めております。「郷土愛あふれる藤沢」については、市政運営の総合指針 2016 の目指す都市像と、教育基本法第 2 条の規定にあります「郷土への愛」が重なりますので、「郷土愛あふれる藤沢」といたしました。
- ・全体的には藤沢の財産である自然、歴史、文化、人などの人と地域との関わりの中で、郷土愛あふれる藤沢の教育いわゆる学びとして取り組んで「学びの環・人の和・元気の輪」を未来に繋いでいこうという決意、メッセージということで策定したところです。
- ・3の基本的な方針（本文）については、「1 いつでもどこでも学ぶことができる機会をつくり、学んだことを地域で活かし自らの成長に結ぶことができるよう、道徳や礼節を大切にしながら社会の変化に対応できる「学びの環」を広げましょう。」
「1 マルチパートナーシップに基づき、郷土や文化への愛着を高めながら、誰もが社会の一員として共に生き、支えあう社会を輝かせるため、家庭、学校、地域で「人の和」を広げましょう。」
「1 すべての人が社会参加の意欲を高め、他者の心を尊重して行動する豊かな心を養うため、心身の体力を育むことで、健やかで笑顔あふれる毎日を過ごす「元気の輪」を広げましょう。」という3段の構成としております。
- ・1段落目の「学びの環」につきましては、藤沢市教育振興基本計画の基本理念の「多様な学びにつながる生涯学習ネットワークを構築する」というところに位置づけております。これは生涯学習の視点を踏まえる中で、世代や時の流れを超えて「学びの環」を広げる。いつでも誰でも学び続け、その環を享受しあえる地域のあり方というところを位置づけました。
- ・2段落目の「人の和」については、学校・家庭・地域・行政が連携・協働する子育て教育支援体制を推進するという教育振興基本計画の3つの基本目標に基づいて、学校、家庭、地域、行政とのマルチパートナーシップを前提にしながら、郷土や文化を通して多様な価値観を認め合う共生社会を位置づけております。
- ・3段落目の「元気の輪」については、一人ひとりの夢を育み、未来を拓く藤沢っ子を育成するという目標と関係づけをする中で、藤沢市が持つ地域資源、あるいは 2020 年東京オリンピック・パラリンピックを活用しながら、生涯スポーツ、心身の体力、これはいじめに負けない、いじめを許さないというものを育みながら、すべての人の社会参加、学びの意欲、思いやりなどの豊かな心を育んでいきたいと思いますというところで位置づけております。
- ・この大綱の素案については、教育振興基本計画の趣旨を参酌しながら、3つの「わ」の視点から、学びを通したまちづくりということを視点にしながら、策定後の利活用も含められる大綱ということで考えました。説明は以上でございます。ご協議のほどよろしく願いいたします。

鈴木市長

- ・事務局には前回の指摘事項を勘案して取りまとめていただきました。そしてまとめていただいたものについて、少しニュアンスが違うとか、もう少しこういう読み方だという部分があれば、ご発言いただきたいと思います。

吉田委員

- ・いつもたくさん申し上げて事務局に課題を与えていますが、今回、今まで言ってきたことをすっきりと整理して下さったという思いがあります。まず、わかりやすいという点、誰でも読んで素直にすんと落ちていくのではないかと、何より藤沢らしい柔らかい表現というのがとても良いと思っています。この3つの「わ」はすぐ心に響いてきますので、ぜひ、このまま踏襲していただきたいと思います。
- ・それから「基本的な考え方」の中に「笑顔あふれる幸せなまちづくり」は、藤沢の子どもたちの将来が見えるような思いもここに入っているのではないかと考えましたし、基本的な方針の中に3つの「わ」をうまく入れていただいて、最初の「学びの環」のところでは、学んだことを地域で生かすと、今、地域で活動する時間帯が子どもたちにはなかなかなくて、地域の方となじめない部分もあるのですが、このところ、公民館まつりとか地区レクリエーションで、子どもたちが地域の皆さんと混じっている姿を見ると、とても良いなと思いますし、そこで学べる道德観、社会性といったことも広がりを持つものではないかと考えます。
- ・それから「人の和」のところでも郷土愛、自分の住んでいるエリア、藤沢市全体といったところで、社会の一員として共に生きるという、自分たちがいかに地域の一員になれるかということが、子どもたちだけでなく、大人も含めて共に生きることで、支え合う社会をつくっていくことができるのではないかと考えました。
- ・それから最後の「元気の輪」は前回話題になりましたが、「心身の体力」という言葉の中に、今、いじめの問題とか人権、家庭環境、貧困の問題と様々なことがあるけれども、それを全部ひっくるめて心、体の体力を養うことによって、元気の輪が広がっていく。究極として人が人をつくり、人が人と交わることで人になっていく、そういった深い意味も感じ取れる大綱ではないかと思ひ、私は、この原案に賛成です。

井上委員

- ・私もとてもよく取りまとめられたと感じております。表題の3つの「わ」の「学びの環・人の和・元気の輪」というものが「基本的な方針」できっちり説明されていると感じています。「地域で学ぶ」ということでは、道德や礼節というものが入っていて、ここは大変良いと思いました。「人の和」については、「郷土愛あふれる」というところで、藤沢らしい地域、あるいは郷土への愛着ということが「人の和」というところにもつながるだろうと思ひ、社会の一員として考えることができるのかなと思いました。
- ・それから「元気の輪」については、他者の心を尊重して行動するということですが、最近、子ども

たちを見ていますと、自分さえよければ良いというような考えを持つ子が多少見受けられ、大変心配しておるところですので、特にこの部分につきましても、人の気持ちがわかるような子どもたちを藤沢にも欲しいといつも思っております。そういったことも含めて「心身の体力」という表現は、やさしくてしかも重みのある表現と感じました。

- ・そしてオリンピックに向けて、元気に体力もつけていただくようオリンピックの輪と重ねられるということで、この3つの「わ」はとてもよくマッチングしていると思い、藤沢の教育方針にふさわしい教育大綱であると、とてもよくできているものと思いました。

小竹委員

- ・今回の「ふじさわ教育大綱」はとてもすてきに仕上がっていると思います。「学びの環・人の和・元気の輪」と「わ」という言葉で韻を踏んで、そしてやさしい言葉でわかりやすく説明されていると思います。
- ・「基本的な方針」では、「道徳や礼節を大切にしながら」という一文が盛り込まれていて、具体的にそういう姿勢を示しています。また、郷土愛の愛着を高めながら、社会の一員として人の和を通して生きていく。そして体だけでなく心も強く育むということで、この「わ」はオリンピックの実現に向けて結んでいくという将来の希望もあわせてつくっていると思われて、とてもよくできていて、とても良い文章であると思っております。

中林委員

- ・前回からの参加ですが、素案②の文章のまとめたところを持ってきてくださいという願いをしましたところ、「基本的な方針」の「広げましょう」というところに生かしていただきました。「繋いでいきます」というところが、今回は、素案の「基本的な方針」のところに「繋げよう」という形で3つ入っていたのを「前文」に「繋いでいきます」という形で入れていただいたのは、とても良いなと思います。
- ・それから子どもの笑顔だけでなく、大人も保護者も笑顔になるためには、大人も自分勝手な行動というところがあるような気もしますので、保護者としても子どもにこれを読ませていただき、自分も一度読み込んでいただくことで他者への心の尊重をしていただいて、心が元気でないと体も元気にならないと思いますし、これがいじめなどの問題に影響してくると思いますので、心の元気もつけながら、オリンピックにつないでいけたら良いと感じました。

鈴木市長

- ・皆さんから、素案でもよくできているという声があります。私も「学びの環・人の和・元気の輪」とそれぞれ藤沢らしい特徴があって良いと思っておりますが、1つだけ言葉の収まりで気になったところは、「前文」の2段落の「人や地域の関わりの中で学び、考え、行動する（生きる）」とあるところが、（生きる）というところを括弧でくくるのではなく、生きる力とか生きる活力とか、もう少し出した方が良いような気がして、ここだけが収まりの部分で気になりました。

事務局

- ・前文の「人や地域の関わりの中で学び、考え、行動する」と最初はしていたのですが、「考え、行動する」というのは、結局、生きることにつながるのかなというところで「行動する」を「生きる」に置き換えても良いかなというところでどちらを生かそうか、まだ迷っているところではあります。

鈴木市長

- ・取り方としてはそういうふうにも取れるけれども、もう少しシンプルな言葉の中で、生きることの力は大事ではないかという感じがしたのですが、関係する部長さんから参考になる意見はありますか。

事務局

- ・この案は企画政策部でつくらせていただいて、委員の皆さんからかなり完成度が高い形でご了解いただいたのですが、もう少し並び替えも含めて、座長からご指摘の「生きる」という言葉をもう少しクローズアップするような形で折り込むとか、もう少し整理しなければいけないかなという反省があります。
- ・右側の解釈的なものはしっかりと位置づけられているので、これをもう少し整理して、端的にすんと落ちるような形にできるのではないかと考えていますが、その辺でお知恵をいただければと考えております。
- ・大綱に示すべき内容については、示しているのかなと覚えているところがありますが、ここはもう少しというところを関係職員の皆さんからご意見をいただければと思います。また、この後、パブリックコメント等も実施しますので、その中で多少、意見を反映するとなると、変更する部分はあるかと思いますが、委員の皆さんからはご意見をいただいているのですが、手前味噌でつくっている部分もありますので、藤沢の教育大綱ということであれば、もう少し入れた方が良いという点等がありましたらお願いします。

平岩子ども青少年部長

- ・「学びの環・人の和・元気の輪」では韻を踏んでいますし、藤沢の目指すものがここに凝縮されているのかなと感じました。そして前文には、「私たちは、すべての人がやさしく手を差し伸べあい」というところで、子どもたちから保護者、そして生涯学習の視点まで盛り込んでいるのかなと感じましたが、子どもたちが「未来への夢や目標に向かって生きる力を育み」というところは、子どもたちが未来への夢や希望や目標を持ってほしいというところをもう少し表していただけると、もちろん子どもからお年寄りまでの生涯学習の視点はわかるのですが、この辺に「子ども」という言葉が入ってこないのが、藤沢市がつくる教育大綱ですので、その辺の視点を少し入れていただけると、より子ども青少年部としては嬉しい気がします。

事務局

- ・確かにそうなんです、例えば私の年代になっても夢や目標ぐらいいは持って良いのかなとなると、

短い文章でいろいろの方たちを表現しようとする、なかなか厳しいところがあるのですが、この中にどういうふうに入れていくか、ちょっと難しい。おっしゃるように、子ども大人も障がいのある人も高齢者も全部という意味なので、できれば「藤沢の次代を担う子どもたち」という言葉が入ったら良いということでしょうか。

鈴木市長

- ・量的にも質的にも重点になる部分は結構あると思います。

中島生涯学習部長

- ・委員さんからは大変好評ですので、十分な議論があったのだと思っています。前回、私は出ていないので、議論の過程がちょっとわからない部分があるのですが、十分反映されているんだなということが今わかりましたので、特にないのですが、2つ感じたことを申し上げますと、1つは、この大綱は、特に子どもに限定することはないと当初思っていたのですが、初めのころの議論を聞きますと、次世代を担う子どもたちのためにというのが強調されていたような記憶がありまして、もしそこを「藤沢らしさ」という中で子どもを強調するのであれば、平岩部長が言ったようなことでも良いのかなという気がいたします。
- ・私たちの立場から言うと、別に子どもでなく、あらゆる世代がという気持ちがあるのですが、ただ、今回の会議を聞いていると、子どもをかなり強調している部分があったように、過去の資料を見ると見受けられるので、そう言ったところを入れても藤沢らしさが出るのかなと思いました。
- ・それから、「基本的な方針」の1つ目の「学びの環」というのは、「生涯学習ふじさわプラン」でも同じような言葉を使っています。その基本方針では「いつでもどこでも誰でも」という言い方をしています。もう1つ、その上に基本目標があるのですが、そこでは「誰もが参画できる生涯学習環境の整備」というのがあることを考えると、できれば「いつでもどこでも誰でも」というふうに入れていただいても良いのかなと思いました。

坂本保健医療部長

- ・この文章を読ませていただいて、一番目に入ってきたのが、「やさしく」とか「未来への夢」とか「笑顔あふれる幸せなまちづくり」、それから「道徳や礼節を大切に」とか、「郷土や文化への愛着」、「豊かな心、健やかな」という言葉が出てくるけれども、これは悪口ではないのですが、常套的だなと、余り理詰めがないなという印象がありまして、科学的な言葉がないといけないのではないかなと思ったわけです。
- ・私は保健所の所長として、この時期ですと、病院に立ち入り検査に行っておりまして、そこでは医療方で立ち入り検査の目的というのが、「病院を科学的でかつ適切な医療を行う場としてふさわしいものとする」という文言が入っているので、「科学的」という言葉が大綱という中にふさわしいかどうかかわからないけれども、保健医療の分野ではよくエビデンスという言葉を使うんですが、かつての医学というのは、余り科学は考えなかった。つまり同じ病気でも大学の医局によっては違う治療法でやっていた。それがエビデンスという言い方が出てきて、それもそんな昔ではなくて1990年

以降にエビデンスという言い方が出てきたのですが、教育に関してはそんなことは当たり前だとなっているのかもしれないけれども、ちょっと考えたのは、教育に関しても証拠とか根拠に基づいた教育という考え方が述べられても良いのかなと思いました。

鈴木市長

- ・各部長さんからのご意見をいただきました。また、保健医療部長さんからもいろいろ注文をいただきましたけれども、前提として、わかりやすいとか、そういったことで方向性を示すような大綱ということで、その話を入れることによって、よくなるか、わかりにくくなるかと、その次の段階でそういったことが入ってくるのか、この辺は検討しながらやっていきたいと思っております。
- ・それから歴史や文化、自然というものを育みながらというのですが、できれば次世代に繋げるとか、そういったニュアンスの方が良いのかなという感じもしているのですが、今、部長さんからもお話をいただきました。余りたくさん入るとごちゃごちゃになってしまうのですが、基本的には素案を基にして、よりわかりやすくなるようなことでは、それはそれで直していきたいと思っています。

井上委員

- ・先ほど座長がおっしゃった「生きる」が括弧書きになっているところが私も気になっておまして、そのところはその後、考えていただけるのかなと思いますけれども、藤沢っ子というものをどこかに入れることを考えても良いのかなと思ったわけです。
- ・そうすると、2行目のところの「人や地域の関わりの中で学び、考え、行動できる藤沢っ子として生きることで自分と地域」というふうに、そのところが合うような形で「藤沢っ子」を入れた上で、それが「生きること」というふうに繋げていただくことも考えながら、調整していただきたいと思っています。

吉田委員

- ・まだちょっと考えがまとまらないのですが、藤沢の教育大綱ということで対象になる方はどなたでしょうといったときに、生まれてから一生涯どう人づくりというところに行き着くのかなという思いを私はしています。
- ・そうすると、「子ども」という言葉を入れると、私たちも学校教育に携わっているので、できれば全部、「子どもが」と入るのが良いかなという気もするのですが、子どもというふうに限定してしまうと、大綱というよりは、もっとより具体的な項目の方に入るのかなという思いがしますので、右側の「注釈」のところを少し整理をして落とせるような形にしたいと、先ほど部長がおっしゃっておられるけれども、そちらにつけ加えるとしても、大綱としても大きくりなままで良いのではないかと考えています。
- ・それから座長が言われた「行動する（生きる）ことで」というところを、もし変更するのであれば、考え、行動することで、学習指導要領に載っている「生きる力を身につけて」というのは、別に子どもに限らず、すべての方に通ずるのではないかと思うので、「行動することで生きる力を身につけ、

自分と地域を輝かせ」というふうな流れにしていくと、「生きる力」というのが入るのかなという思いをしています。文章は1つ気になって直してしまうと、どうしても自分流の文章になってしまい、なかなか構成が変えにくいところもあるので、意図的な流れとしては、この大綱にさせていただいて、もう少しつけ加えるところがあったり、気になる部分があるところを整理していくというような形をお願いできたらと思います。繰り返しになりますけれども、子どもという対象に限定しなくても良いのではないかと思います。

鈴木市長

- ・確かに生まれてから最期までが対象になるわけですが、学びと言えどもみんな学ぶんですけれども、義務教育とか高校教育をはじめ、この辺をあえて出すか、出さないかです。

吉田委員

- ・最初にこの大綱の話をした際に、子ども青少年部の平岩部長が切れ目のない教育というか、切れ目のない支援をずっとつなげていくようなものを望むという話をされていて、私もその辺のところは大賛成で、切れ目がないという意味で言ったら、濃いところもあるけれども、総体的に未来への夢や目標に向かってというような形で、全市民に向けての方がよいのかなと思ったわけです。

鈴木市長

- ・この辺はどちらが良いとか悪いではないけれども、方向だけ決めておいた方が、かえって入れちゃうことによってごちゃごちゃになってしまうというニュアンスもあるので、ここは解釈の問題としてはまたいろいろ出てくる話であると思っておりますけれども、大綱としてはこういう形の考え方ということでよろしいですか。あとは「生きる力」というのは非常に大事だと、もうちょっと強調した方が良いのではないかという意見もありました。そんなところでもう一度整理して、次回についてはパブリックコメント用の最終案をつくっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。この件はこれで終わりにしますが、何かありますか。(なし)
- ・それでは、大綱の件はこのくらいにしておきたいと思えます。
- ・次に(3)平成28年度予算について、事務局の説明をお願いします。

事務局

- ・平成28年度の予算についてですが、第2回総合教育会議で、今年度新たにスタートした事業をはじめ、既存の事業の拡大などで協議をいただいた内容としては、小学校1年生でも学校に通いづらくなっている子どもがいたり、中学校に上がったところで学校になじめにくくなっている、いわゆる「小1、中1の壁」への対応が必要ではないかとか、幼稚園、小学校の連携という形を考えていくことも必要なのではないかとか、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの増員を踏まえて、困り事を抱えているすべての子どもたち一人ひとりに向き合っていきたいと思いますという働きかけを教育委員会の方では行っているけれども、本来、先生が一番やりたいこと、あるいは子どもたちの心とか学びを育成していくための1つの方策として、そういったことも拡充していただ

るとありがたいです。あるいは中学校の公務支援システムをバージョンアップして使えるようになっていくと、多忙さが少し減るのかなと期待していきたい。また、学校では人が大変重要であるということを改めて感じています。

- ・人を教育するのは人に勝るものはないという部分と、それをもっと活用するためにICT等の機器をどう入れていくかといったところで、ICT環境と言われている機器類をそろえていただきたい。それが教員の多忙を少しでも解消して子どもと向き合う時間が増えていくような形を取っていききたい。そして教育現場の多様化を踏まえると、教育を充実するということが最低限必要になってきますとか、人的配置が重要なキーになってくるのではないかと、加えて学習する環境の整備面も必要になってくるのかなというところ、あるいは子どもの貧困というのが大きな問題になっていますので、子どもたちが安定して学業に取り組めるような支援制度が必要かなといったところが意見として出ていると思います。
- ・以上のところが委員の皆様から出たご意見の概略になりますけれども、平成28年度の予算を考えるに当たっては、小1の壁、中1の壁、そして教育現場におけるICT化の推進であるとか、子どもの貧困とか開かれた学校とか学校のプラットフォーム化など、さまざま子どもを取り巻く学びの環境をどう整備していくかといったところは、事務局としても今後のまちづくりを進めていく上で大きな課題になるのではないかと考えております。ただ、財源にはどうしても限りがありますので、先生方の多忙化や子どもたちの健全な育成のためにどう使っていけば良いのか。また、今後取り組むべき政策にはどういったものがよいのかといったところを委員の皆様に変更のご協議をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

鈴木市長

- ・具体的な予算の流れについては手続を踏みながら議会の議決に持っていかなければいけないわけですが、皆様方から特段こういった傾向にあるようだと、大ざっぱな中での話があれば言っていただきたいと思います。
- ・基本的には昨今の社会情勢等、既に議論されていますけれども、藤沢型の地域包括ケアシステムができたり、「地域の縁側事業」を進めていく中で、子どもの居場所の問題が大きく取り上げられている昨今でありますし、また、学校においては先生方が本来業務の他に多忙であるということが言えると思いますけれども、そういった中で、いかに本来業務をしていただけるための後方支援というものができていくのか、こんな視点から施策をつくっていかなくてはいけないと、大卒で感じておりますけれども、また、皆さんからもこういう視点もあるとか、こういうことが今、問題になっているとか、これとこれに幾らと余り細かいことは良いですから何かありましたらお願いいたします。

小竹委員

- ・昨今の社会が多様化する中で、教育の現場でもいろいろなものが求められてくるのが、昔に比べれば多種にわたっていると思われまます。例えば校内においてはいじめの問題であるとか不登校の問題であるとか、また、社会からの要求に対しての先生方の多忙さが増すばかりであります。先生方の

時間的にも体力的にもすり減っていくような感じが見てとれることが多いので、人的支援ということと先生方の現場を少しでも支援していただきながら、本来の先生方の仕事への充実感を図っていただけるような形をお願いしたいと思っております。

中林委員

- ・私はPTAの本部でやっていた経験からお話をさせていただきますが、特に小学校の先生は、本当に忙しいんだなと思うことがありまして、PTA活動で学校に行ったときに職員室をのぞくと、先生が誰もいないという状況が1回、2回ではなかった。いろいろな原因があると思うのですが、本来やるべきことができているのであれば、それは本末転倒で、よく先生方から聞く話は、もっと子どもと遊びたいと、もっと子どもたちと一緒にいたいのにそれがなかなかできないというような話も聞いたことがあります。人ももちろん大事だと思いますけれども、今、パソコンがないと何もできない状態であると思っておりますので、その辺の環境を整えていただきたいと思います。
- ・それから学校自体の建て替えはなかなか難しいと思うのですが、せめて中の環境、例えばエアコンの充実であったり、トイレの環境整備とか、外側はきれいではないけれども、中はせめて同じ状況で勉強を教えていただけるような学校の環境を整えていただきたいと思います。先生方が心も体も元気でないと、健全な子どもは育たないと思っておりますので、親も多様化している中で、お子さんの個性もいろいろある中で、人ももちろん大事ですが、環境整備も含めてトータル的にサポートしていただけたら良いなと思っております。

井上委員

- ・教育現場が非常に多様化しているということで、私たちが子どものころは、あの先生とこんなことをしたという記憶が今でも鮮明に残っているような気がします。そういうことから考えると、多様化したということもあるのですが、なかなかそういう時間が取れないということにもなるということで、もう少し子どもたちの笑顔とともに先生に笑顔が戻るには、やはりそういった教育現場の人的配置が重要なことになるだろうと思っております。そういうことが子どもたちに与える影響が非常に大きくなると思っておりますので、本当は担任が2人ぐらいいれば良いのでしょうか、なかなかそういうわけにもいきませんでしょうか、できるだけ手厚い人的な配置をしていただくところに予算を投入するということも一番重要なことになると思っております。それからいろいろなことを処理するにはパソコンでということも当然ありまじょうし、そういったものを使って子どもたちを指導するということにもなりますので、I Cを使う教育ということにも最近の先生方はたけていらっしゃると思っておりますので、そういった機器がなければなかなか使いづらいということもありますので、そういったところに重点的な予算をつけていくということも必要になってくるだろうと思っております。
- ・それから給食の問題も出ていますけれども、給食をもう少し充実するということも重要なところだろうと思っております。パソコンの普及率は藤沢市は非常に低いということを知っておりまして、5人に1台という状況の中でせめて半分程度に持っていき、あるいは全員が使えるような形になれ

ばもっと良いと思いますけれども、そういったところにも力を入れて予算の配分をしていただければ、現場の先生方が少し余裕が持てると、そこが良い教育につながるだろうと思っております。その辺のところでも予算を重点的に配分していただければと思っております。

吉田委員

- ・今までも教育については市長のご理解のもと、たくさん予算をつけていただいていると思っております。国では最近、「チーム学校」ということを言い始めて、教職員以外に学校に専門性を有する人たちを配置する、チームでいろいろなことを対応していくということも藤沢では早々とスクールカウンセラーを入れていただいたり、スクールソーシャルワーカーを入れていただいたりということで、相談体制の充実が図られてきていると感じています。その上にもっとというのも心苦しいところはあるのですが、教育環境としては一番人的支援が必要だということで、今までもずっとつけていただいていたと思います。その人的支援の方ですけれども、やはり小学校に人の手が足りないなという印象があります。特に今の小学校の1年生、2年生の低学年に課題を多く持っているお子さんがいて、なかなか学校に行くのを朝、しぶってしまったり、途中でパニックを起こしてしまって、クールダウンが必要というようなときに、担任は2人おりませんので、ぜひ担任の先生をサポートできる教師をつけていただけたらなと思います。中学校では市費講師の制度を入れていただいておりますので、教科の免許状を持った先生が対応できるというありがたいシステムになっておりますが、小学校もそういった意味ではプラス1になる支援ができる先生をぜひ配置していただきたいと思っております。
- ・それから環境整備についても、市の予算の中で空調をつけていただいておりますけれども、また、学校の方も空調を期待しているところもありますし、調理員さんたちが暑い中で作業をしておられますので、ぜひ調理場とあわせて空調の整備も考えていただけたら大変ありがたいと思っております。
- ・それから積年の課題のトイレもまだまだ環境上、あまり行きたくないトイレになっているところもありますので、学校の施設設備という点で、子どもたちが安全で安心して学校生活を送れるような環境を整えていただけたらありがたいと思っております。
- ・それから委員からお話のありましたICT、情報機器の関係については、今まで人を重点的に予算化していただけてきましたので、少し遅れてしまっているのですが、教員の多忙化解消、事務処理の効率化の面でも考えていただけたらありがたいと思っております。お願いごとばかりで申しわけないのですが、ぜひよろしく願います。子どもたちと教員の笑顔が保護者の方も笑顔になるのではないかと思いますので、よろしく願います。

鈴木市長

- ・この場でどうのこうのというわけではないけれども、皆さんのおっしゃることを認識として共有できたと思っております。これをどういう形でいくかはいろいろなところででき上がっていくと思いますが、いずれにしても教育大綱ができて、それに沿ったような中で頑張っていきたいと思っております。

- ・ それでは、この件はよろしいでしょうか。(「異議なし」の声あり)。
- ・ 次に(4) その他ですが、何かありますか。(なし)
- ・ また、こういったテーマで研究していこうといったことも含めてご意見があれば、事務局に言っていただきたいと思います。

事務局


- ・ 次回はパブリックコメントをする上での最終調整の会議となります。この教育大綱そのものは、学びを通して子どもを育て、人をつくり、そのことで地域ができて、その地域ができていったことにつながり笑顔あふれるまち藤沢になっていく、郷土愛あふれる藤沢づくりにつながるというようなことを基本に考えておいておりますので、きょうのご意見も踏まえて再度修正させていただきます。特に、委員の皆様には教育総務課を通じて早めに修正案をお配りし、次回の協議に向けて目を通していただくという形で進めていきたいと思っております。
- ・ それから平成 28 年度の予算については、いただいたご意見につきましては、教育部が整理をして数字に落とし込んでいくと思っておりますが、きょう、直接、市長にもお話を聞いていただきましたので、反映できる面がありましたら、事務局としても反映できるように努めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。
- ・ それでは、次回は 12 月 2 日 (水) 午後 2 時からといたします。
- ・ 以上をもちまして、平成 27 年度第 5 回総合教育会議を閉会いたします。

(午後 6 時 58 分 閉会)

2015 年 (平成 27 年) 12 月 2 日

この会議の経過を記載し相違ないことを確認する。

藤 沢 市 長

鈴木 恒夫 

藤沢市教育委員会委員

吉田 早苗 